

特集

夜間多尿に対する薬物療法

横山 修

福井大学医学部泌尿器科学講座

Key Words

夜間多尿, デスマプレシン, 利尿薬, NSAIDs, α_1 アドレナリン受容体遮断薬, 抗ムスカリン薬

夜間多尿は夜間頻尿の原因として大きな比重を占めているが、これまで保険収載された薬剤はなかった。しかし、2019年6月に「男性における夜間多尿による夜間頻尿」にデスマプレシン25 μ gと50 μ g製剤が保険適応となり、新たな治療選択肢が登場した。低ナトリウム血症の患者、習慣性または心因性多飲症の患者、腎機能障害のある患者、利尿薬・副腎皮質ステロイド薬投与中の患者などには投与禁忌であるが、適応さえ誤らなければ有効性は高いと報告されている。その他、夜間頻尿に適応はないが有効とされる利尿薬、非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)、 α_1 アドレナリン受容体遮断薬、抗ムスカリン薬についてもエビデンスを紹介する。

はじめに

夜間排尿回数2回以上の患者では、約60%が膀胱容量の減少と夜間多尿をとまなうとされ¹⁾、また50~78歳の男性1,688例を対象とした集団ベースコホート研究では、65歳未満の男性では夜間に尿産生量が低下する明らかな概日リズムを示したが、65歳以上の男性の概日パターンは明確ではなく、夜間多尿が多く認められたと報告されている²⁾。このように高齢者では夜間多尿が夜間頻尿の原因

として大きな比重を占めている。また、夜間頻尿患者の約半数に膀胱容量の低下がみられるが、夜間排尿回数に対する影響は大きくなく、泌尿器科疾患の治療による夜間頻尿の改善はそれほど期待できない。したがって、われわれ泌尿器科医は夜間多尿の治療ストラテジーに精通する必要があると考えられる。本稿では、夜間頻尿診療ガイドライン第2版をもとに夜間多尿に対する薬物治療を中心に解説する。

Osamu Yokoyama (教授)